

54年ぶり、ようこそ奈良の地へ!!

平成30(2018)年度 日本教育大学協会 全国美術部門協議会

第57回 大学美術教育学会 奈良大会 <最終案内>

テーマ 文化遺産と美術教育 2018年9月22日(土)–23日(日)

### ■ごあいさつ

平成30年度 日本教育大学協会 全国美術部門協議会、並びに第57回 大学美術教育学会「奈良大会」を、54年ぶりに奈良教育大学で開催致します。口頭発表、ポスター展示による研究発表、奈良大会運営事務局主催のシンポジウムなどが開催されます。関係者の皆様には、様々な面からご支援を賜りまして、奈良大会実行委員会を代表致しまして、心から御礼申し上げます。

さて奈良大会の企画行事(シンポジウム)のテーマは、「文化遺産と美術教育」です。皆様ご承知のように、奈良には『法隆寺地域の仏教建造物』と、東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡からなります『古都奈良の文化財』、そして吉野・大峯とその参詣道を県内に含む『紀伊山地の霊場と参詣道』の三つの世界文化遺産がございます。

その奈良の地で、自らはアジアの工芸史・彫刻史をご専門とされ、また同時に博物館における学芸活動に長年携わってこられた奈良国立博物館館長の松本伸之氏、そして文化遺産を対象として生徒の能動性を生かす鑑賞教育を実践してこられた津市立粟津中学校教頭の人見和宏氏、そしてまた文化財学芸員としての業務を全うしつつ中学校と連携して鑑賞教育に新しい取り組みをされている、総本山醍醐寺学芸員の田中直子氏の3氏によります文化遺産と美術教育のこれまでとこれからについてご報告いただいた後、会場の参加者を交えてディスカッションをおこないます。このシンポジウムを通して、参加者の皆様と共に、先人達が残してくれた貴重な文化遺産と、それを生かした美術教育に関して、様々な課題を共有し、次世代に求められる高度な教育内容につながる絶好の機会となることを期待しています。

今回の奈良大会での研究発表、企画行事(シンポジウム)、総会、懇親会など、すべての場を通じて、我が国の学校教育と、その基盤を支える教員養成を担う大学教育において取り組むべき事項について、互いに考察し交流する機会を、この大会が提供できることを祈念して、平成30年度 日本教育大学協会 全国美術部門協議会、並びに第57回 大学美術教育学会「奈良大会」のごあいさつとさせていただきます。

奈良大会運営委員長 大山 明彦

### ■会期・会場

平成30(2018)年9月22日(土)、23日(日)

(\*21日(金)は役員会議、24日(月)は祝日)

奈良教育大学(〒630-8528 奈良市高畑町)

JR奈良駅、近鉄奈良駅より市内循環バスなどで10-15分

<http://www.nara-edu.ac.jp/access/>

### ■主催

日本教育大学協会 全国美術部門協議会／大学美術教育学会

### ■後援

奈良教育大学



奈良教育大学 講堂

## ■運営

奈良教育大学 大会運営事務局

## ■参加費・懇親会費

会員の皆様、並びに、興味関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。ご参加の程、心よりお待ち申し上げます。なお最新の情報は、以下の学会web サイトにて確認下さい。 <https://www.uaesj.com>

事前申込みは、8月27日(月)で終了しました。現在、当日申込み料金になっていますので、当日受付(当日申込み料金)にてお支払いください。

<参加費> 会員・一般 [当日申込み料金 5,000円]  
院生・学生 [当日申込み料金 3,000円] \* 現職教員院生を含みます。

<懇親会費> 奈良教育大学内 学生会館 山田ホール  
会員・一般 [当日申込み料金 4,500円]  
院生・学生 [当日申込み料金 3,500円] \* 現職教員院生を含みます。

## ■日程概要

○平成 30(2018)年9月21日(金) 大会前日の役員等の諸会議 受付開始予定 12:30

○9月22日(土)大会一日目 受付開始予定 9:00

○9月23日(日)大会二日目 受付開始予定 9:00

## ■日程詳細

### [大会前日 9月21日(金)]

受付1 (15:20 までの会議参加者用) 12:30-13:00 1F104 講義室

各種会議 13:00-17:10

13:00-13:30 拡大総務局会議 3F 306 講義室

13:30-14:20 全造連大学委員会 3F 302 講義室

14:20-15:20 全国学校美術教育支援委員会 3F 304A 講義室

学会誌委員会 3F 304B 講義室

全美協役員会(私学)3F 302 講義室

15:10-15:30 受付2 (15:30 からの会議参加者用) 1F 104 講義室

15:30-16:30 学会拡大理事会 3F 306 講義室

16:30-17:10 美術部門協議役員会 3F 306 講義室

全美協総会 3F 302 講義室

### [大会第1日 9月22日(土)]

○受付 9:00-9:30 1F104 講義室

○研究発表 9:30-11:45 [口頭発表1] 1F<101, 102>の各講義室, 大講義室, 2F<201, 206>の各講義室

○昼休み 11:50-12:50 (事前注文制のお弁当は、受付(1F104 講義室)にてお渡しします)

○研究発表 12:55-15:10 [口頭発表2] 1F<101, 102>, 2F<201, 206>の各講義室

○開会行事 15:15-15:35 1F 大講義室

○シンポジウム 15:45-17:45 1F 大講義室

奈良大会運営事務局主催シンポジウム「文化遺産と美術教育」

登壇者 松本伸之氏(奈良国立博物館 館長), 人見和宏氏(大津市立栗津中学校 教頭)

田中直子氏(総本山醍醐寺 学芸員)

コーディネーター 山岸公基(奈良教育大学 教授)

○懇親会 18:00-20:30 大学内 学生会館 山田ホール

**[大会第2日 9月23日(日)]**

- 受付 9:00-9:30
- 研究発表 9:30-10:35[口頭発表 3] 1F<101, 102>, 2F<201, 206>の各講義室
- 協議会 10:45-12:10 本部事務局主催「平成30年度日本教育大学協会全国美術部門協議会」1F 大講義室  
テーマ：教員養成縮小期における国立大学の現状と課題—これからの美術科教員養成を占う  
パネリスト 新井 浩(福島大学), 濱口由美(福井大学), 秋山敏行(愛媛大学), 栗山裕至(佐賀大学)  
コーディネーター 新関伸也(滋賀大学)
- 昼休み 12:10-13:10 (事前注文制のお弁当は、受付(1F104 講義室)にてお渡しします)
- ポスター発表 12:30-13:20 2F<207, 208, 209>の各講義室
- 総会 13:25-13:55 1F 大講義室
- 研究発表 14:00-16:15[口頭発表 4] 1F<101, 102>の各講義室, 大講義室, 2F 201 講義室  
学生会議 2F 206 講義室
- 大会引き継ぎ会(奈良教育大学→岐阜大学) 16:30- 2F 203 講義室

**奈良大会運営事務局主催シンポジウムについて**

**[奈良大会運営事務局主催シンポジウム「文化遺産と美術教育」]**

開催日時：平成30(2018)年9月22日(第1日) 15:45-17:45

会場：奈良教育大学 1F 大講義室

**登壇者**

松本伸之氏(奈良国立博物館 館長)

人見和宏氏(大津市立栗津中学校 教頭)

田中直子氏(総本山醍醐寺 学芸員)

コーディネーター/司会：山岸公基(奈良教育大学 教授)

昨年3月の学習指導要領改訂に伴う教育内容の主な改善事項として、伝統や文化に関する教育の充実が挙げられています。中学校美術科の目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成と総括され、生活や社会での美術や美術文化へのかかわり方として、美術館での鑑賞や、文化遺産を見るための寺社や博物館の訪問が例示されています。これは小学校図画工作科や高等学校美術科の目標とも連動するものです。

現代に続く日本の神祇信仰や仏教の揺籃の地であり、文化遺産鑑賞の場としての国立博物館をも擁する奈良で、博物館における学芸活動に長年携わってこられた奈良国立博物館館長松本伸之氏、文化遺産を対象として生徒の能動性を生かす鑑賞教育を実践してみえた現大津市立栗津中学校教頭の人見和宏氏、学芸員としての業務を全うしつつ中学校と連携して鑑賞教育に新機軸を打ち出しておられる総本山醍醐寺学芸員田中直子氏の三氏にご登壇いただき、文化遺産と美術教育のこれまでとこれからのことについてご報告をいただいたうえで、フロアも交えたディスカッションを行います。古くからの文化遺産と美術教育との新たな関係を、奈良大会で議論することにより、文化遺産を生かす全国各地での美術教育に有益な示唆をもたらすことができるよう、議論を深めたいと思います。

**登壇者紹介**

松本 伸之(まつもと のぶゆき)

奈良国立博物館館長。早稲田大学大学院美術史専攻修了。和泉市久保惣記念美術館学芸員、東京国立博物館研究員を経て、京都国立博物館及び東京国立博物館の副館長を務めた後、平成29(2017)年より現職。専門はアジアの工芸史・彫刻史。中国を中心に、アジア各地の古代から近世にかけての工芸史と彫刻史に関する調査研究を進め、多種多様な文化

財の様式的な分析を通じて、文化の伝播ないし交流・展開の実態を跡づけようと試みている。また、文化財行政に広く関わりながら、博物館における収集・保存、企画、展示、教育、情報発信、国際交流等、博物館運営を巡る様々な課題に取り組んでいる。

人見 和宏(ひとみ かずひろ)

大津市立粟津中学校教頭。滋賀大学大学院教育学研究科修了。昭和 63(1988)年から草津市立草津中学校に勤務。野洲町立野洲中学校・滋賀大学教育学部附属中学校・大津市立粟津中学校の教諭、滋賀県教育委員会および大津市教育委員会学校教育課指導主事等を経て平成 30(2018)年より現職。中学校美術科の授業において、主に地域の文化財を取り上げ、生徒の能動性を生かす鑑賞授業の実践に取り組む。平成 13(2001)年教育美術振興会第 36 回教育美術賞佐竹賞受賞。平成 18(2006)年日本美術教育学会第二回実践研究奨励賞受賞。平成 20(2008)年文部科学大臣優秀教員表彰を受ける。

田中 直子(たなか なおこ)

総本山醍醐寺学芸員。上越教育大学大学院学校教育研究科修了。文部省短期派遣留学生として、イギリス・スコットランドのセント・アンドリュース大学大学院へ留学。学校法人関根学園高等学校非常勤講師、高山市教育委員会・文化課文化振興担当学芸員を経て平成 24(2012)年より現職。文化財保存整理、蔵書整理、寺宝の仏画の復元模写制作に携わる。文化財の教育普及についても研究を進め、平成 26(2014)年より地域連携による京都市立醍醐中学校との文化財鑑賞授業を行っている。

## ■「口頭発表」及び「ポスター発表」について

### [口頭発表]

- 1, 申込方法・申込資格・申込方法・概要集原稿提出(終了しました。)
- 2, 開始時に、各会場の司会者が発表者名(所属)と発表題目を紹介します。
- 3, 発表時間  
発表時間20分、質疑応答10分です。開始15分で一回(一鈴), 20分で二回(二鈴), それぞれ鈴を鳴らします。二鈴の後は、速やかに発表をおやめ下さい。
- 4, パソコン, 接続線について  
発表用のパソコンは、各自で持参下さい。会場のプロジェクターにはRGB接続線とHDMI接続線がついています。いずれかをおつなぎいただき、入力スイッチを切り替え下さい(係スタッフもおります)。Mac PCの場合には、アダプターを各自ご持参下さい。
- 5, 発表者準備室は、1F 103講義室です。受付(1F 104講義室)の横になります。各発表室と同じ操作盤となります。
- 6, 配付資料  
配付資料がある場合には、50部-70部程度ご用意いただき、直前に会場入口前の机の上に置いて下さい。

### [ポスター発表について]

当日参加が条件で、発表者がポスターは自身で作成・印刷し、会場で掲示してください。

- 1, 申込方法・申込資格・申込方法・概要集原稿提出(終了しました。)
- 2, ポスターの掲示  
ポスターは発表者ご自身でお持ちいただき、大会第1日(9月22日)10:00から大会2日目(9月23日)12:00までの間に、発表者ご自身で掲示して下さい。ピン等、貼付用具は奈良大会運営事務局で準備します。掲示場所は、講義棟1・2号棟207, 208, 209講義室となります。掲示のパネル位置については事務局で決定し、パネルにお名前を貼っておきます。

### 3, 発表時間

大会2日目(9月23日)の12:30-13:20のポスター発表の時間帯には会場で発表ならびに質疑応答をお願いします。司会はありません。

### 4, 条件等

- (1) A1判(594mm X 841mm)縦長, 2枚まで。
- (2) ポスターには①氏名(所属)②研究テーマ③研究の概要を必ず入れてください。
- (3) 用紙に写真を貼ったり, プリントアウトした図表を貼ったりするなどして自作しても結構ですが, 立体物の貼り付けは不可とします。

### 5, 発表終了後のポスターについて

発表時間終了後のポスターは第2日(23日)15:00までに, 発表者ご自身で撤去をお願いします。15:00以降, 残されているポスターは処分いたします。

### ■宿泊先

各自でお早めに手配をお願いします。

### ■託児について

平成30年度日本教育大学協会 全国美術部門協議会/第57回 大学美術教育学会奈良大会では, 託児の対応をしておりません。ご了承のほどお願いします。

### ■問い合わせ先

#### ○大会全般に関する問い合わせ

奈良大会運営事務局 〒630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学 美術教育講座 奈良大会運営委員(窓口)  
宇田 秀士 E-mail [udah\\*nara-edu.ac.jp](mailto:udah*nara-edu.ac.jp) \*を@におきかえて送信下さい。

#### ○奈良大会 運営事務局<奈良教育大学 美術教育講座>

[大会運営委員長] 大山 明彦  
[副委員長(研究)] 山岸 公基  
[副委員長(総務)/大会運営委員(窓口)] 宇田 秀士  
[運営事務局委員] 原山 健一, 竹内 晋平, 狩野 宏明

#### ○オンライン大会登録受付システム(e-naf+)に関する問い合わせ先

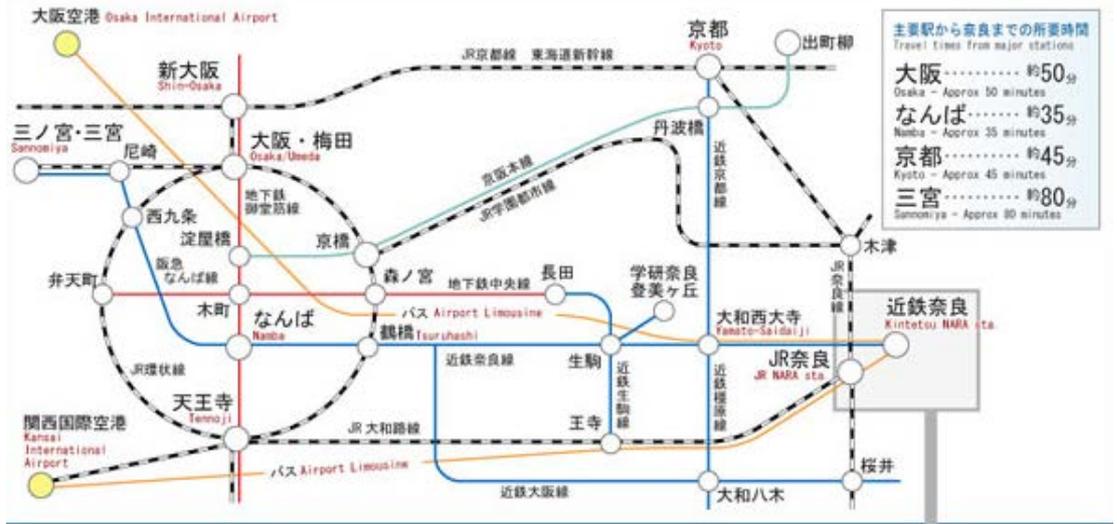
第57回 大学美術教育学会 奈良大会 システムサポートデスク  
TEL: 075-415-3661 Email: [uaesj57\\*nacos.com](mailto:uaesj57*nacos.com) \*を@におきかえて送信下さい。

### ■会場(講義棟内教室)案内, 口頭発表一覧(スケジュール), ポスター発表一覧について

このPDFファイルの後半部分をご覧ください。

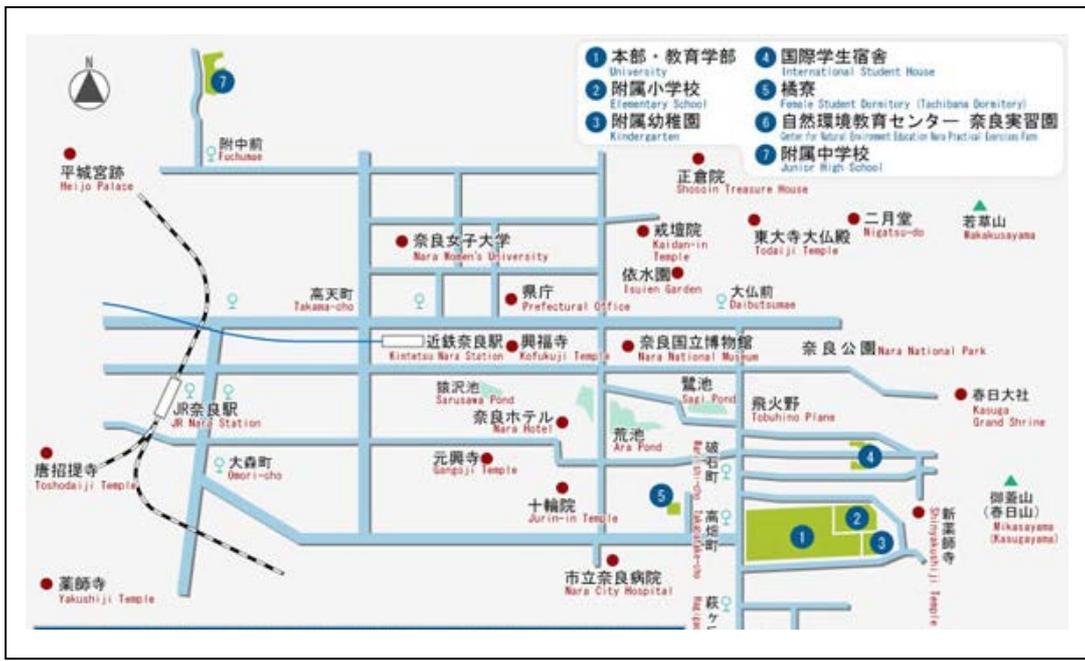
# 交通機関

奈良市まで  
JR, 飛行機,  
近鉄線などで



# 奈良市内

- <JR 奈良駅から> 東口より 奈良交通バス2系統 市内循環線(外回り), 56系統 山村町行, 57系統 藤原台行などに乗車, 高畑町(たかばたけちょう)で下車(乗車時間 約15分)。  
奈良交通バス1系統 市内循環線(内回り)に乗車, 高畑町で下車(乗車時間 10-15分)。 <料金 210円>
- <近鉄奈良駅から> 西改札を出て5番出口よりバス乗り場へ 奈良交通バス2系統 市内循環線(外回り), 56系統 山村町行, 57系統 藤原台行などに乗車, 高畑町(たかばたけちょう)で下車(乗車時間 約10分) <料金 210円>
- \* 市内循環線(外回り)は, <JR 奈良駅>→<近鉄奈良駅>→<東大寺大仏殿前>→<高畑町>→<大森町>→<JR 奈良駅>といった循環をします。市内循環線(内回り)は, その逆になります。
- \* 観光シーズンで道が混雑している場合には, 最寄りの駅で下車して歩いた方が早い場合があります。バス乗務員にご相談下さい。ちなみに<JR 奈良駅>からは, 徒歩約33分, <近鉄奈良駅>からは徒歩約26分です。
- \* <JR 奈良駅>, <近鉄奈良駅>からの時刻表は, 以下HPより検索して下さい。  
<https://navi.narakotsu.co.jp/timetable/>
- \* バスは, ICOCA, PiTaPa, Suica, PASMOなどのICカードでも乗車できます。詳しくは以下HPをご覧ください。  
<http://www.narakotsu.co.jp/rosen/cica/index.html>



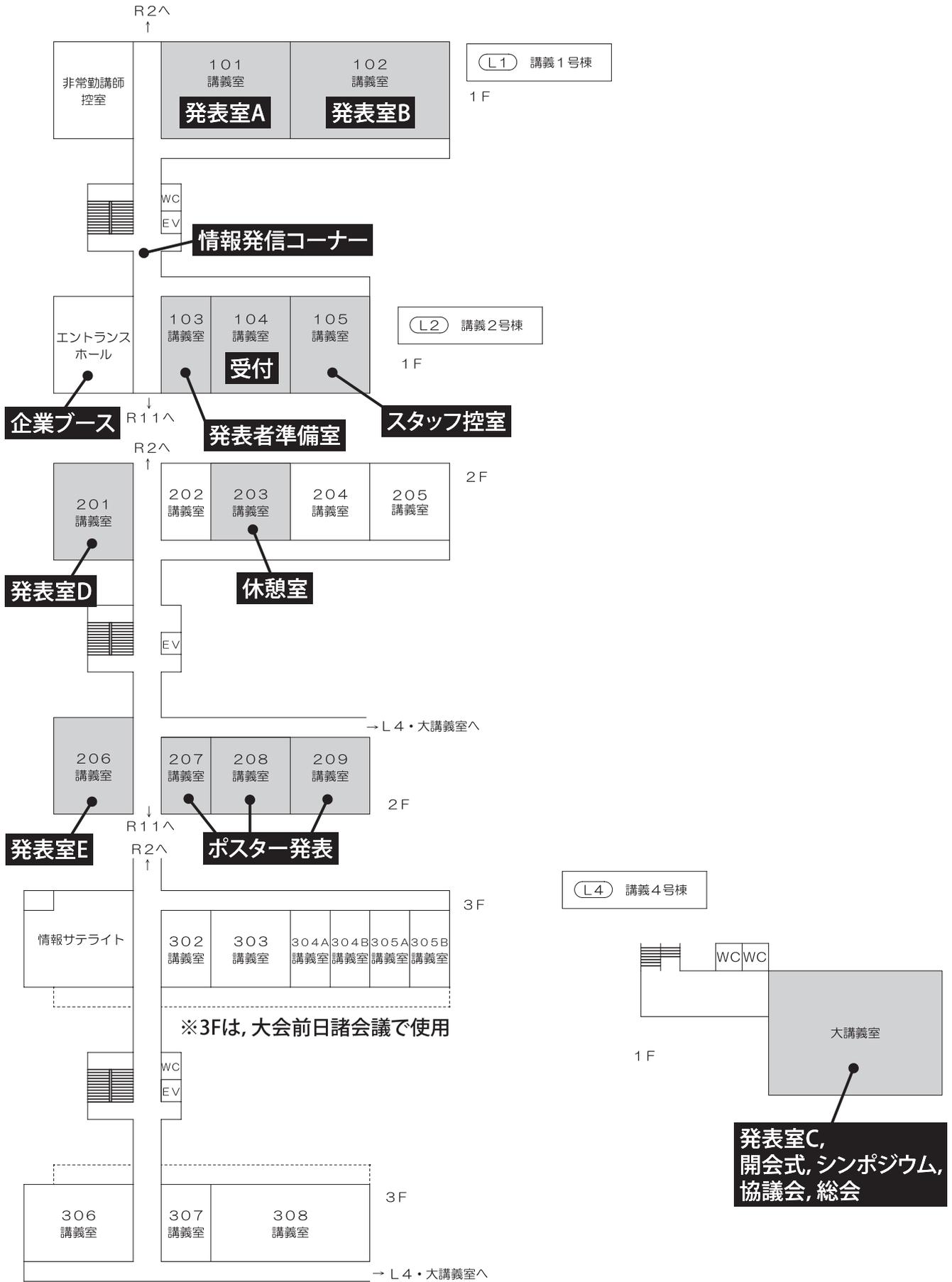
## 奈良教育大学キャンパス地図

バス停を降り、正門から入って直進し、講堂(⑦)を正面に見て左手に折れ、講義棟(L2, L1)を目指して下さい。懇親会会場は、⑪になります。



9月22日、23日のお帰りは、以下の時刻表を参照して下さい。大学から道を隔てて反対側のバス停になります。なお、JR奈良駅には、大学側のバス停より市内循環外回りバスに乗りいただいてもかまいません。

会場案内



## 口頭発表一覧

- ・発表の準備は、1F 103 講義室（受付横の教室）をご利用下さい。
- ・口頭発表の進行は次の通りです。[発表時間 20 分間（15 分で一鈴、20 分で二鈴）、質疑応答 10 分]

### 【第1日 9月22日(土)】

9:00～9:30 受付

9:30～11:45 口頭発表1

	発表室 A 〈1F 101 講義室〉	発表室 B 〈1F 102 講義室〉	発表室 C 〈1F 大講義室〉	発表室 D 〈2F 201 講義室〉	発表室 E 〈2F 206 講義室〉
9:30 ①	図画工作科の学びにおける子供の模倣行動と教師の関わり 浦崎 渉（富山大学大学院教職実践開発研究科教職実践開発専攻）	幼児期におけるハサミで形を切り抜く能力に関する研究—幼児のハサミ使用技能の現状調査— 大西洋 史（関西国際大学）	美術（アート）の協同的創造によるカリキュラム開発Ⅱ—協同的問題解決スキルの領域固有性に関する考察— 手塚 千尋（東京福祉大学短期大学部こども学科）	金属を用いた工芸教育の意義—錫を素材とした造形遊び的活動の可能性について 林 ももこ	
10:00 ②	美術教育への現代美術の取り入れられ方に関する研究動向と課題 新井 馨（広島大学教育学研究科）	教材としての墨アート—新学習指導要領と墨アート— 松崎 としよ（大和大学）、川本 展之（大和大学）	20 世紀後半以降の日本美術科教科書の中学 2・3 年本における巻頭文の検討 山口 喜雄（元 宇都宮大学）	空間を素材として認識するための課題と実践 山下 圭介（奈良教育大学(非)）	90 年代以降 City and Country School (N.Y.) における美術経験を中心とした学習の変容—実験校としての役割の変化から— 伊東 一誉（東京学芸大学大学院連合学校教育研究科）
10:35 ③	中学美術における「日本の美術文化の継承と創造」の考察—発墨水墨画によるモダンテクニックの展開— 新川 美湖（東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程）	多人数で作ることに着目した教材開発の試み—竹材を使ったオブジェ制作— 八重 櫻良二（北海道教育大学旭川校）、岩永 啓司（北海道教育大学旭川校）	「文検図画科」試験問題の研究—「図案」の場合— 亀澤 朋恵（愛知江南短期大学）		<造形の思考／造形の意志>のはたらきについての—考察—西野 範夫の意味生成論を手掛かりに— 清家 颯（大阪教育大学附属天王寺中学校）
11:10 ④	創造のきっかけを作る題材開発「かいてみよう子ども時間」—幼稚園での実践から考察する— 木谷 安憲（川口短期大学）	小中一貫教育のカリキュラム構築に関する—考察— 松久 公嗣（福岡教育大学美術教育講座）	戦前期全国中等学校図画教員の総覧的研究—奈良県— 金子 一夫（茨城大学）	教育における Useful Art の可能性 細野 泰久（東京学芸大学大学院連合学校教育研究科）	第二次世界大戦下のポーランドにおける子どもの絵画についての考察 南雲 まき（金沢学院大学）
11:15 ⑤	体験型鑑賞教育の研究—鑑賞授業「ブルネレスキとギベルティ」をもとに— 緒方 信行（熊本大学）	エディターシップ論から考える「発想や構想の能力」—外山 滋比古と松岡 正剛の論述をもとに— 山田 一美（東京学芸大学）		子どもの表現を育む場における芸術士® の役割—高松市「芸術士派遣事業」の実践から— 吉川 暢子（香川大学）	現代フランスにおける芸術教育の展開に関する考察 小笠原 文（広島文化学園大学学芸学部子ども学科）

11:50～12:50 昼休み（\*弁当を事前注文された方は、1F 受付（104 講義室）までお越し下さい）

12:55～15:10 口頭発表2

	発表室 A 〈1F 101 講義室〉	発表室 B 〈1F 102 講義室〉	発表室 C 〈1F 大講義室〉	発表室 D 〈2F 201 講義室〉	発表室 E 〈2F 206 講義室〉
12:55 ⑥	体験型鑑賞教育の研究—鑑賞授業「ブルネレスキとギベルティ」をもとに— 緒方 信行（熊本大学）	エディターシップ論から考える「発想や構想の能力」—外山 滋比古と松岡 正剛の論述をもとに— 山田 一美（東京学芸大学）		子どもの表現を育む場における芸術士® の役割—高松市「芸術士派遣事業」の実践から— 吉川 暢子（香川大学）	現代フランスにおける芸術教育の展開に関する考察 小笠原 文（広島文化学園大学学芸学部子ども学科）
13:25					

13:30 ⑥ 14:00	ヴェロネーゼ「カナの婚宴（1562-63年）」の読解的鑑賞—食事の絵の系譜からの題材提案— 岡田匡史（信州大学）	図画工作科における汎用的資質・能力の育成に関する一考察—一年間の題材を通して— 守屋建（東京学芸大学附属小金井小学校）		テンペラ絵具と油絵具の混合技法の研究—テンペラ絵具における多様な表現技法の可能性— 山本小百合（福岡教育大学大学院）	カンボジア初等教育段階での日本の美術教育支援の実績と成果に関する調査 鈴木光男（聖隷クリストファー大学）
14:05 ⑦ 14:35	ワシリー・カンディンスキー作『コンポジションⅧ』の鑑賞と抽象画の制作—中学3年生における実践を踏まえて— 立原慶一（宮城教育大学）	描画材作りを通じた色材体験教材の研究—クレヨン作りの実践について— 加藤隆之（福岡教育大学）		フレスコ画におけるストゥッコ技法 江藤望（金沢大学）、大村雅章（金沢大学）	美術教育の「本質的な学び」への概念的接近—1960～70年代におけるケネス・R・バイテルの研究方法的分析から— 佐藤絵里子（東海大学短期大学部）
14:40 ⑧ 15:10	幼稚園における造形活動を軸にしたプログラミング思考育成の可能性についての一考察 橋本忠和（北海道教育大学）	若手教員の初年度授業力充実をめざすために—教員養成教育における図画工作科指導で求められること 隅敦（富山大学人間発達科学部）		カルロ・クリヴェッリのテンペラ画における石膏地盛り上げ技法 大村雅章（金沢大学）、江藤望（金沢大学）	『構成教育大系』に基づく今日的造形教育の研究 野見山美咲（福岡教育大学大学院）

15:15～15:35 開会行事（発表室 C 〈1F 大講義室〉）

15:45～17:45 奈良大会運営事務局主催シンポジウム「文化遺産と美術教育」（発表室 C 〈1F 大講義室〉）

18:00～20:30 懇親会（大学内 学生会館 山田ホール）

## 【第2日 9月23日（日）】

9:00～9:30 受付

9:30～10:35 口頭発表3

	発表室 A 〈1F 101 講義室〉	発表室 B 〈1F 102 講義室〉	発表室 C 〈1F 大講義室〉	発表室 D 〈2F 201 講義室〉	発表室 E 〈2F 206 講義室〉
9:30 ⑨ 10:00	主体的な学びのための美術鑑賞における作品・問い・語りの関係 菖蒲澤侑（文京学院大学）	映像メディア表現を通じた暮らしに生きるイメージの表象と経験的な学修に関する一考察—美術教育における地域のニュース番組制作を通して— 赤木恭子（熊本大学）		持続可能な社会づくりの担い手を育むための図画工作科の題材—ESDの視点で見る過去の教科書題材— 松井素子（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士課程）	立体造形を通じた場所と他者との出会い—チェコ共和国プラハでの制作活動と小学校での「巣」をテーマとした共同授業研究— 家崎萌（上越教育大学大学院）
10:05 ⑩ 10:35	「平成の百工比照」を用いた工芸教育での鑑賞授業構想の試み 横江昌人（小松市立高等学校・金沢美術工芸大学（非））、桑村佐和子（金沢美術工芸大学）、加藤謙一（金沢美術工芸大学美術工芸研究所）	教師が変容する図画工作科の研修の在り方に関する一考察 青木善治（新潟県南魚沼市立上関小学校）		コンセプチュアルアート演習としての文人画—チェコ共和国・西ボヘミア大学デザイン美術学部でのワークショップ 稲垣立男（法政大学国際文化学部）	鑑賞活動における言語と身体的経験の関わりについての研究—安藤榮作と高校生との交流の場を創る教育実践を通して— 西丸純子（兵庫教育大学大学院）

10:45～12:10 協議会「教員養成縮小期における国立大学の現状と課題」（発表室 C 〈1F 大講義室〉）

12:10～13:10 昼休み（\*弁当を事前注文された方は、1F 受付（104講義室）までお越し下さい）

12:30～13:20 ポスター発表（2F 207 講義室、208 講義室、209 講義室）

13:25～13:55 総会（発表室 C 〈1F 大講義室〉）

14:00～16:15 口頭発表4

	発表室 A 〈1F 101講義室〉	発表室 B 〈1F 102講義室〉	発表室 C 〈1F 大講義室〉	発表室 D 〈2F 201講義室〉	発表室 E 〈2F 206講義室〉
14:00  ⑪  14:30	地域連携における醍醐寺所蔵重要文化財の公開について—中学生を対象とした鑑賞授業の報告Ⅲ  田中直子（宗教法人醍醐寺）	同一材料を活用した「A表現」の内容考察—大学生の授業実践を通して  蝦名敦子（弘前大学教育学部）		観察法を用いたプロダクトデザインの授業実践と考察  川原崎知洋（静岡大学）	学生会議 新しい学びを共有する—未来の美術教育をつくるために—
14:35  ⑫  15:05	芸術的行為を媒介にした他者との〈共感的対話〉による社会的相互行為の創造に関する研究  大平修也（兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科）、松本健義（上越教育大学）	図画工作科における創造活動を通じた「造形的な視点」の変遷Ⅰ—学習指導要領以前の「造形的な視点」の捉え—  西村德行（東京学芸大学）		子どもの絵の批評とアセスメントの基底—身体と地球及び文化との相互性から  小泉卓（桜花学園大学）	
15:10  ⑬  15:40	造形ワークショップの実践を通じた子育て支援における「重層的な関係」の構築—川崎市市民ミュージアムでのワークショップ実践から—  前沢知子（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）、大泉義一（横浜国立大学）	子どもたちのための楽器づくりの研究：素材と製法について  笹原浩仁（福岡教育大学）	山形県長瀬校における〔想画教育〕の再考—教科横断型カリキュラムマネジメントの視点から—  降籙孝（山形大学）	図画工作科題材における「大きさの意味」について  大杉健（武蔵野大学）	
15:45  ⑭  16:15	一人ひとりが学びを深める美術鑑賞 知識構成型ジグソー法による小中学校の実践事例  古田啓一（小田原短期大学名古屋サポートセンター）、河野一重（大垣市教育委員会）	「図工観」の転換を目指して—「初等図画工作」の授業実践を基に  井ノ口和子（共栄大学）	デジタルデバイスを用いた描画についての考察とその発展可能—サブカルチャー発展の分析、液晶/板型タブレットの使用実験から—  瀧澤悠（埼玉大学 教育学研究科 / 教育学部 附属小学校）	エピソード記述を用いた描画活動の質的検討—イメージと関係性の相互作用について—  小室明久（東京学芸大学 個人研究員）	

## ポスター発表一覧

No.	発表題目	発表者
1	絵画作品を用いた鑑賞教材の提案と実践 —「対話で完成 ばする de divisionism」—	高田 美汐 ((公財)横浜市芸術文化振興財団) 塚本 万里 (株式会社ムラヤマ)
2	塑造の最終素材に関する実験的研究 —FRP に代わる新素材の提案	岡野 茜
3	子どもが触れることを楽しむ鑑賞教育の実践	野村 和弘 (金城学院大学)
4	マンガを題材とした図画工作科の学習開発 —児童のコミュニケーション能力向上を目指して—	大西 宏和 (広島大学教育学研究科)
5	図画工作科における自己評価の概念に関する検討	会田 憧夢 (広島大学教育学研究科学習開発専攻 カリキュラム開発専修)
6	折り紙を用いた図画工作科の共同製作に関する学習開発 —自己有用感を高めるために—	黒坂 大樹 (広島大学大学院教育学研究科)
7	模写を取り入れた鳥獣人物戯画の鑑賞と地域学習への展開	川里 智子 (国立大学法人福岡教育大学大学院)
8	PT フレームで起こった形の変容 —シンボルマークの発想支援—	世ノ一 善生 (滋賀大学教育学部美術教育講座)
9	子どもの造形表現理解の試み —「振り返りシート」から見る保育者の意識の変容—	藤田 知里 (就実大学)
10	美術制作を通じたシニアの学習ニーズの変容	安里 知陽 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科) 勅使河原 君江 (神戸大学)
11	「子どものアート研究会」芸術を主体とした学外活動	北沢 昌代 (聖徳大学短期大学部)
12	保育園との連携造形活動実践報告 (2018 前期を中心に)	加藤 可奈衛 (大阪教育大学) 井野 よし子 (太成学院大学)
13	『うみだす教科の内容学』を一般化していく試み	石井 壽郎 (東京学芸大学) 古川 拓明 (町田市立小山中学校) 中村 翔太郎 (府中市立府中第八小学校)
14	美術教育のための抽象美術のイメージ調査 —作家・美術関係者に対する質問紙調査をもとに—	十時 宏之 (東京学芸大学大学院)
15	IB ディプロマプログラムに根ざしたアートフィールド ワークの実践 —実感のある作品発表と比較研究への発展をめざして—	後藤 保紀 (東京学芸大学附属国際中等教育学校)
16	ポスター制作における教育効果 - 成果と課題 —「図工の学力視える化プロジェクト」を通して—	三澤 一実 (武蔵野美術大学)
17	ちいさな黄色い手紙プロジェクト レポートⅠ —ウクライナと日本をつなげる児童画、実践と考察—	加藤 克俊 (豊橋創造大学短期大学部) 葉山 亮三 (会津大学短期大学部)
18	ちいさな黄色い手紙プロジェクト レポートⅡ —ウクライナと日本をつなげる児童画 実践と考察—	葉山 亮三 (会津大学短期大学部幼児教育学科) 加藤 克俊 (豊橋創造大学短期大学部幼児教育・ 保育科)